

平成19年度第2回豊田市商業委員会会議録

【日 時】 平成19年9月25日(火) 午後1時30分～4時

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 委員
加藤 勇夫〔愛知学院大学商学部教授〕
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕
浅井 良隆〔コンサルティング・オフィス アット・ドリーム代表〕
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕
松井 栄子〔三州足助公社〕
福岡 朋子〔愛知教育大学 学生〕
事務局
金子 宏〔豊田市産業部長〕
鈴木 辰吉〔豊田市産業部商工担当専門監〕
宮川 龍也〔豊田市産業部商業観光課長〕
横山 薫〔豊田市産業部商業観光課副主幹〕
成瀬 剛史〔豊田市産業部商業観光課係長〕
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕
傍聴者
4名

【次第】 1 開 会
2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
3 委員長あいさつ
4 審議事項
(1) 商店街活性化計画について (資料1)
・下山商工会
5 報告事項
(1) 中心市街地活性化基本計画進捗状況について (資料2)
(2) 商業活性化推進交付金事業進捗状況について (資料3)
6 その他
7 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成19年度第2回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

4 審議事項

(1) 商店街活性化計画について

・下山商工会 大沼商店街活性化計画

下山商工会会長 近藤氏、計画策定委員長 小幡氏、スタンプ会会長 柴田氏より、資料1-1「下山商工会 大沼商店街活性化計画 概要版」・資料1-2「下山商工会 大沼商店街活性化計画報告書」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただく。

【主な質疑応答】

委員 ポイントカードはどのようなものになるのか？

下山 現行同様の2%還元。さらに満点になると端を切り離し、地域助成券として利用できる。ポイントを貯めながら、地域へ貢献できる。その分も商店街が負担する。さらに実施団体を小売のみでなく、他業種へ広げていきたいと考えている。

委員 消費者はイベントや特産があれば訪れる。地域外からの集客を考えるとイベント等を行うなど観光的要素をPRしてほしい。

下山 三河湖の途中に足を停めてもらえるような仕掛けをしていきたい。植栽等継続的に行っていく計画も持っている。

委員 下山の里へたまに行く。今健康志向が高まっているため、空気のおいしいところで無農薬野菜を販売するのは若い女性や家族連れにも魅力がある。

下山 地域外から買いに来る方も多い。自慢の農産物や産業をもう一ランク上に持っていくために、コア案内所を上手く利用してPRしていきたい。

委員 助成の対象になるのはどの事業になるか？

事務局 要綱の中で当てはまるものになる。この計画の事業は全て現要綱で対応できる。今後は、商店街の策定した活性化計画事業に対して助成が行うことができるよう要綱改正を行っていく。

委員 この計画は様々な要素があり、どうリンクさせていくか。エコミュージアムは短期的には効果は出ないため、息の長い取り組み、地域事業として行っていく必要がある。朝市が当面の集客核になると思うが、どう拡

充していくか？またポイントカードは固定客中心であり、高齢者がメインとなる場合に紙からカードになるメリット、カード人口増加の可能性があるのか？また小売業以外の業種を巻き込む方法をもう少し詳しくお願いしたい。

下 山 朝市は毎週地域外から買いに来る方が見えるため、ここでもポイントカードが利用できるようにしたい。また高齢者が多いため、毎日のように病院に通っているため、病院にもポイントカード協力依頼をし、職種を選ばないポイントカードにしたい。

委 員 マスタープランをどこまで考えておくべきか。

事務局 商店街活性化計画は3年計画。長期の視点を持ちながら当面何をやるかをまとめていただくのが一番良い。事務局として評価する立場ではないが、合併地域で第一号であること、コア施設整備、朝市の活性化、ポイントカードの導入を行い、活性化を目指すことなど3年計画としては要件をクリアしているため認定していただきたい。市の要綱で支援できるメニューが無い場合は、計画を認定した以上は、メニューを策定していく方針である。

委 員 合併したことにより観光のことも考えていく必要がある。

事務局 合併町村は藤岡を除いて商業地＝観光客を受け入れる拠点となっている。観光振興、商業の活性化を一体化して行っていかなければならない。

委 員 足助も下山もつながっていく観光地として一緒にPRしていく必要がある。香嵐渓と合わせて小原の四季桜を紹介したり、足助は旅館が少ないため、旭に泊まって足助へ来てもらうなどの案内をしているなど、お互いの情報交換から連携が生まれている。

委 員 地元の自助努力が必要。助成だけに頼ってはいけない。交通問題はどうか？

事務局 地域の商店街づくりは地域でがんばっていただくが、全市的な交通ネットワークについては、市内各地区30分交通圏内として、道の無いところには道を作り、各支所へ30分で行けるよう進めている。ハード面だけでなく、ソフト面でも基幹バスを走らせ、利用者が一定以上の負担をせずに各支所へ行けるよう進めている。

委 員 商売者としての意識改革をぜひ行っていただきたい。長野の善光寺の門前町の例のように、呼び水があるからと油断をしていると空き店舗が出てしまう。意識改革を行うことで、計画した事業も上手くいくのではないかと思う。

委 員 地域商業はコミュニティを形成する重要なファクターであり、地域の安全・安心の面からなくてはならない。商店街としてまとまっていくのに必要であればポイントカードをやっていただきたい。空き店舗対策としてコア施設を空き店舗でやってはどうか。朝市で集客できているならばもっと行っていただきたい。一店逸品運動もぜひ取り組んでいただきたい。商工会議所としても、望まれるならば先生も紹介するし、講習会も行わせていただく。

下 山 大沼地域は昔、村内の方々に潤っていた。今は車で豊田・岡崎へ買い物に行ってしまう。圧倒的に空き家が増え、地域住民だけを頼りにしてはやっていけない。下山は昔から観光にかなり力を入れてきており、

年間に70～80万人が見えている。その途中で少しでも足を止めてもらう工夫をしていきたい。周りを見回すと立志弘法など上手く整備すれば人を呼ぶことができるものがある。19年度にポイントカード事業、20年度に核施設を作って観光や個店の情報発信をしたい、21年度にその情報にあたる観光資源の開発整備をしていく。あまりに大きく全てを載せ切れていないが、観光と商業が結びついた整備を地域の特性として認めていただき、ぜひご支援いただきたい。

委員 分散ではなく、集中することも大事。いくつかの事業を結びつける朝市が核となるのもっと回数を増やすべき。継続して定例化しないと集客の固定化にはならない。いろんなことをやることも重要だが、集客力を高めることが大事。

委員 合併地区第1号として期待したい。経営者の意識改革、商店街全体の組織の強化、まちづくり計画を上手く進めていただきたい。メニューが多すぎて消化不良にならないように。委員会としては認定を認める。経過報告も願います。

5 報告事項

(1) 中心市街地活性化基本計画進捗状況について

事務局より、資料2-1「豊田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について」・資料2-2「中心市街地活性化計画の策定について」に基づき報告した。

【質疑応答】

委員 大型店の立地規制について考えられているのか？

事務局 愛知県のガイドラインに従い、大型店を規制していく。

委員 中心市街地で散策するところ、紹介するところがない。個性を出した商店街が必要。行ってみたい、来てみたいという魅力づくりが必要。

委員 友人を案内する場所が中心市街地では難しい。

委員 インフォメーションセンターが駅からすぐ分かる場所に必要。

委員 インフォメーションセンターは中心市街地活性化計画の事業に入ってくる。ただ街中の情報は各個店で案内できるような仕組みを考えていかなければならない。まちづくり株式会社と商工会議所で連携してすぐ取り組んで行く。また駅前オープンカフェを定期的に行い、人が留まる仕掛けもしていきたい。

委員 国から長期で見ているとお褒めの言葉をいただいている。豊田モデルとして全国に発信してほしい。

委員 商業の活性化なくして活力の創出はない。商業を全面に押し出してはどうか。

事務局 商業活動を含めて都市文化とした。今回の法改正は、かつての商業によるまちづくりという手法で上手くいかなかったためである。まちなか居住始め、あらゆる要因を活性化することで計画を策定するということで商業というトーンを抑えて文化としてある。

委員 都市文化の中に商業も観光も含まれているということが一般的に理解されているならば良い。

委員 日本では住宅と商業がいつも分離、店舗の上に住宅がある下駄履き状態は安っぽいイメージがある。ロンドンの街のようにブランド店の上に高級住宅があるようなきちんと一体化したものができれば良い。アメリカでもそのような動きがある。中心市街地の過疎化を止められるような商業と居住地が一体となった新しい中心市街地を作っていただきたい。

(2) 商業活性化推進交付金事業進捗状況について

豊田まちづくり株式会社 深津取締役、杉本地域事業部長より、資料3「豊田市商業活性化推進交付金申請事業の進捗」に基づき報告した。

【質疑応答】

委員 3年計画の最終年度しっかりやっていただきたい。一つのショッピングモールとしてとらえた場合にはもう少し時間がかかりそうではあるが、まちなかも徐々に活性化しつつあるということで期待している。

委員 商業者が地域住民を含めてみんなでまちづくりを考えていくという役割、責任に目覚め、効果的に動き出している。役割をきちんと認識するところからまちは変わっていく。

6 閉会

事務局 長時間に渡り、熱心なご審議をいただきありがとうございました。皆様方のご努力で中心市街地も一頃に比べると人通りも多くなってきた。地域商業についても守り育てていかなければならない。商業・観光を融合するなど地域ごとに特色ある商店街づくりを進めていただければと思う。がんばる商店街応援プランの「選択と集中」の考えから歩き始めた地域をぜひ応援していきたい。補助要綱もメニューに無いものは提案していただき、議論いただき、改正していく。中心市街地活性化基本計画については、年内にまとめて、年度内に愛知県第1号認定を目指して行きたい。今後も各地区の活性化計画、事業評価についてご審議をいただきますので、よろしく申し上げます。本日はありがとうございました。

事務局 観光分野でもがんばるところに支援していく計画を立てている。地域資源を再発見し、磨き上げ、まちづくりを行っていくという点では観光も商業も同じ。やる気のあるところを応援していきたい。

今後の予定

第3回商業振興委員会開催予定日 平成19年1月29日(火)

第4回商業振興委員会開催予定日 平成20年3月13日(木)

以上